

オオハンゴンソウ

Rudbeckia laciniata

キク科

名前の由来

日本に自生するハンゴンソウより大きく、葉の形が似ていることからついた名前。反魂とは死人の魂を呼び戻すことで、古くはハンゴンソウの薬効からついたと言われる。また一説では深く切れ込んだ葉を、魂を手招きする掌にみたてたという。漢字名：大反魂草

特定種

外来生物法：特定外来生物（2010更新時）

形態的特徴

高さ1~2mと大型で直立し、多数が集まり、よく大きな群落になる。花茎は無毛でやや粉白味を帯びる。葉は羽状に深く切れ込み、上方では3~5片、下方では5~7片に分かれ、縁には粗い鋸歯がある。頭花は茎頂につき径5~8cm、中央部は緑黄色の筒状花が集まって盛り上がり、周りに10~14の細長く黄色い舌状花がつく。

類似種：特になし。



オオハンゴンソウ



オオハンゴンソウ。つぼみ



オオハンゴンソウ



ヤエザキオオハンゴンソウはオオハンゴンソウの変種。ほとんどが舌状花



オオハンゴンソウ。開花直前

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

道端や鉄道沿いに大きな群落が見られる。

分布：国外分布は、北アメリカが原産。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、道端や草地などに普通に見られる。しばしば大きな群落をつくる。

生活史

開花時期：7～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草

他生物との関わり

花には虫が訪れる。



オオハンゴンソウ。一面の群落



オオハンゴンソウ。若芽

興味深い話

■明治時代中期に観賞用に導入されたものが、逸出、野生化したという。

■外来生物法に基づいて、特定外来生物に指定されている。

栽培、保管及び運搬、また輸入が原則禁止、許可を持っていない者に譲り渡しや販売などをすることが禁止されている。



オオハンゴンソウの大群落



オオハンゴンソウ



オオハンゴンソウ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 平凡社 1981

「名前といわれ 野の草花図鑑5」杉村昇 偕成社 1992

「外来生物法のウェブページ」環境省

<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>